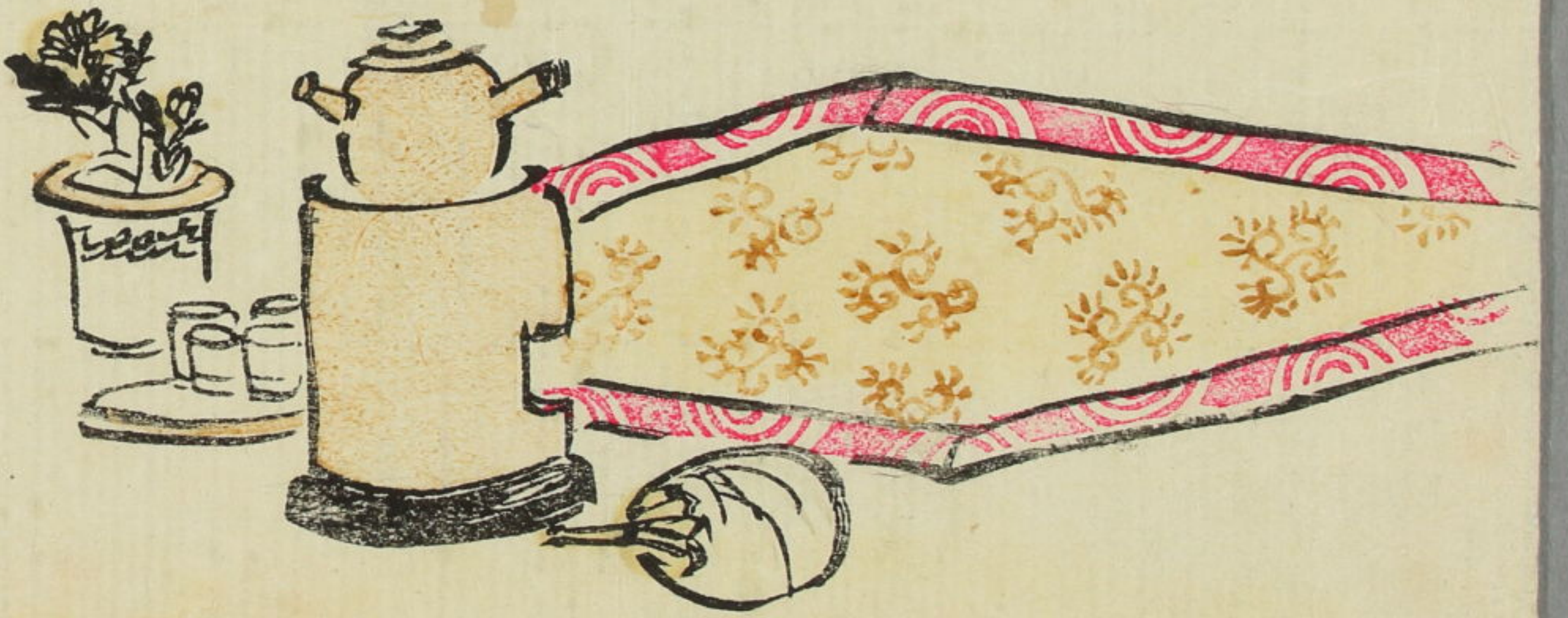




唐筆画



春興行

遠まよも疑をなし初鶺鴒
 暮壁を仮り陰積成る日
 手をそぞろに梅乃香るらん
 大の以むらゝ里如縁以
 指出しの枝数不月の輝きそ
 露柳も汁あるよさの素白し
 突決て今冠の初茶山子
 昔吐しふる生たひく門
 かこつ事此針し泊漸乃店借て
 忍ひの状乃つくとふさの家
 命多け八身のたしなみとち習ひ
 急度坊主は沙汰も有されり
 雲氷尋とならぬ月乃さや
 細豆飯下とくくく 喰梅
 一ふり百とまされる落し 活
 川と訓是たる夫の 能る
 山岨も志し思まぬりかき未て
 戸さくぬ髪と抱ひ果たり

凌冬

鶺鴒 井月 波女 霞松 山好 雀子 羅山 稻谷 田龍 政喬 文堂 一壽 梅園 翠幹 如翹 晴美 竹斐

鶺鴒

